荷路夫（にちぶ）バイパスエコロード計画について

福島県　いわき建設事務所　事業部　道路課

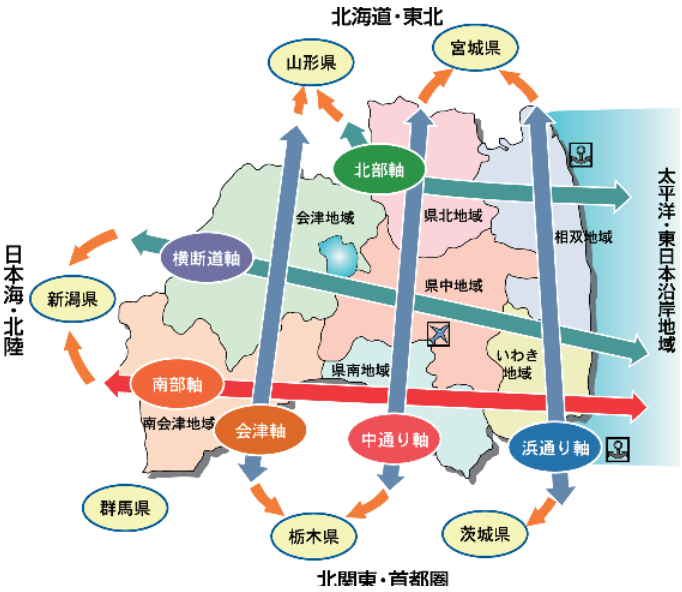
1　国道 289 号　荷路夫（にちぶ）バイパスの概要

一般国道 289 号は、新潟県新潟市を起点として、福島県の南会津、県南地方を経ていわき市に至る延長約 249km の幹線道路で、福島県の新しい総合計画「いきいきふくしま創造プラン」において、七つの生活圏を結ぶ県内 6 本の連携軸の一つ「南部軸」に位置付けられ、今後の県勢発展を支える重要な路線です。

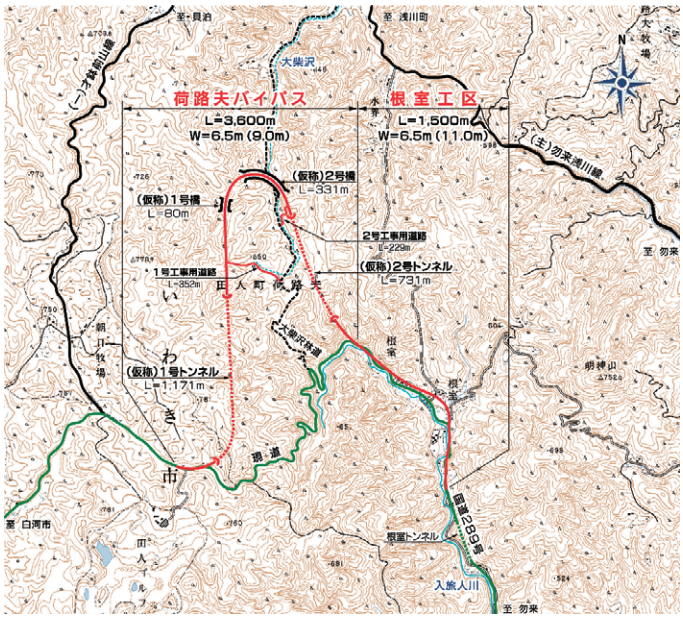
このいわき市田人町荷路夫地内は、幅員が狭く、急カーブ、急勾配が連続する交通の難所となっており、幹線道路としての機能を果たせない状況となっています。

そのため、平成 11 年度より根室工区、平成 13 年度より荷路夫バイパスがこれらの解消を図るため事業化されました。

この地域は豊かな自然が残されていることから、環境への負荷をできるだけ少なくするため、動植物の生態系など自然環境に配慮した「エコロード」として整備を進めました。



福島県の連携軸



国道 289 号荷路夫バイパス計画図

2　国道 289 号　荷路夫エコロードとは

エコロード※とは、「生き物や自然環境を大切にした道づくり」です。

調査・計画段階から設計、施工、管理の段階まで、生き物や自然環境を大切にし、完成後も生き物や自然環境を大切にしているかを調査し、必要に応じて改善を図ることです。

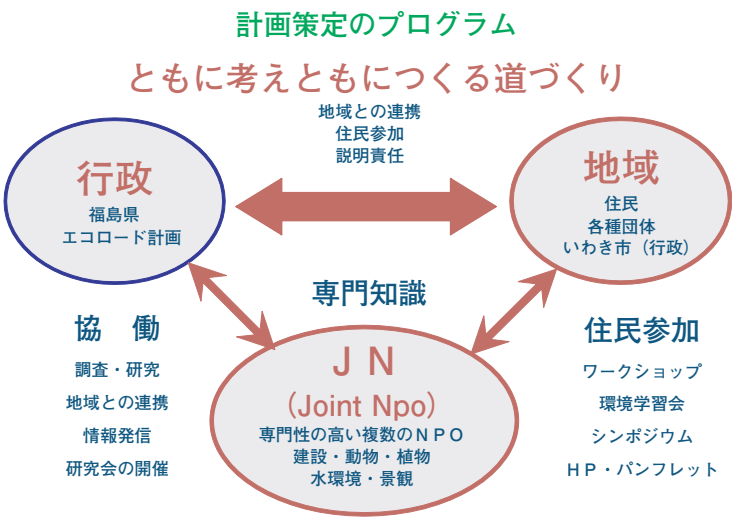
※ エ　コ　：　自然、生態系、自然の生命のつながり
　ロード　：　道、道路

＜身近な自然との共存＞

荷路夫地区の自然は、手つかずの希少な自然ではなく、里山や植林地など私たちにとって身近な自然です。日本ではこのような身近な自然が多く、生物多様性の基礎を支えるとともに、様々な環境保全機能においても重要な役割を果たしています。

希少な自然の保護は自然公園等により保全する方向にありますが、難しいのは身近な自然との共存・共生です。そこには、人のくらしが色濃くかかわっており、人のかかわりによって成り立ち、維持されてきたものだからです。そこで荷路夫エコロードは、日本の里山に見られる身近な自然を守るために、行政や専門家だけでなく、NPO や地域住民も参加した道づくりを平成 16 年度より実践しました。

＜荷路夫エコロード取組方針＞



荷路夫エコロードでは、行政と専門性の高い複数の NPO（JN ＝ジョイント NPO）、地域住民で荷路夫バイパスエコロード研究会を立ち上げ、エコロード基本方針を策定するなど、協働のパートナーとしてともに考え、ともにつくる道づくりを行いました。

＊行政、専門家、ＮＰＯ、地域住民によるエコロード研究会の開催状況

具体的には、地域の自然環境と道路の共存・共生・調和のあり方をともに考え、その実現をめざし継続可能なエコロードの実現のため、ユニバーサルデザイン、環境教育、情報発信、地域との連携など、多面的な取組みを協働作業で行いました。

3 活動内容

荷路夫バイパスエコロード研究会では、地元で活躍している３つの団体が参加し、さらに、専門的な活動を行う３つの分科会を設け、下記の活動を行いました。

＜研究会活動＞

○ 貝泊（かいどまり）こいこい倶楽部

貝泊地区の定住人口拡大と地域の活性化をめざし、地元産品の直売所運営や里山自然体験のほか、移住者や山村留学の受け入れなど活動を展開しています。

＊里山を守るための除草、剪定作業

○ 旅人（たびうと）広葉樹を拡げる会

針葉樹の人口林が多い旅人地区に、四季折々の景観の美しさと保水力の高さという点で優れている広葉樹林を拡げる活動を通じ、生活環境と水資源の保全をめざし活動を行っています。

＊植樹作業

＊里山の風景

○ 明神（みょうじん）里山実行会

うつくしま里山再生モデル事業の助成を受け明神山周辺の雑木林を子ども達が安全に遊べる場所にするなど、荷路夫地内の里山づくりを行っています。

＊里山の風景　　＊植樹作業

＜分科会活動＞

○　エコロードのデザイン分科会

GIS（地理情報システム）を活用して地域の環境調査データを収集・分析し、エコロードのデザインなどに活用しました。

1）アーチパス

福島県鳥獣保護センターのデータによると哺乳類救護原因の第１位は交通事故によるものです。

道路との関係が問題となっているため、荷路夫エコロード計画では GIS で野生動物の移動ルートを解析し、さらに 3D によるシュミレーションモデルを用いてさまざまな工夫を検討しデザインされたアーチパスは、基礎の面積が狭く工事がむずかしい反面、河床を自然に近い状態に保全することが可能となり、タヌキ、テンなどの野生動物にやさしいだけでなく、ヤマメ、サンショウウオなどが遡上し産卵するなどが可能となっております。

＊アーチパス整備後の小動物の利用状況

2）猛禽類の保護

荷路夫エコロードでは、工事中も環境と共存するため、工事区域付近に営巣する猛禽類（ノスリ、ハチクマ）の保護プログラムも GIS により作成されました。ノスリ等の飛翔軌跡を観察し、そこからノスリ等の防衛圏を解析し工事施工に反映しました。

○　**広葉樹の復元分科会**

地域の特性に適した広葉樹の復元・植栽を住民参加型で行うための計画づくりと、エコロード周辺の郷土種の保存を中心に活動しました。

緑は人を含めて動物生存の基盤であり、山地に道路を設ければ、早期の緑地復元が求められています。その場合に留意すべきは周辺の景観に同化し、違和感のない緑地にすることが必要となります。このことから、表土中の休眠種子を活用する、地元種子を表土に混合する、移植可能な木の株を採取し苗に育てる、地元の樹木から種子を採取し実生苗を育てる等により、在来種による緑化計画を確立しました。

【マーキング】

【移植ヤード】

【種の採取状況】

【実生苗】

○　**地域連携分科会**

エコロード周辺地域の連携、エコロード解説員の拡充など、エコロードを地域の資産として活用していただくための土台づくりを行いました。

1）エコロード解説員養成講座

エコロード計画の一環として、エコロードのしくみや荷路夫地区の自然について学び、伝える「エコロード解説員」を養成しています。これまで地域住民や工事関係者など地元に生まれ育った人にとっては、「あるがまま」の当たり前のように見えてしまう地域の自然のつくりやしくみについて学び、理解するため講座を受講し、解説員としてエコロード見学会の案内役として活躍しました。

エコロード解説員育成講座状況

エコロード解説員による説明会状況

2）エコロード見学会

荷路夫エコロードに関する情報発信基地として、『見て、触れて、学ぶ』を概念にエコロードを通じて、環境教育実践の場所に活用しました。

エコロード解説員による子ども達への説明会状況

エコロード解説員による子ども達への説明会状況

エコロード解説員による説明状況

3）地域連携分科会

工事用ヤードの跡地の利活用計画、広葉樹の復元に向けた実行、管理計画など、エコロード研究会よりもさらに具体的な住民参加による取り組みを進め、行政と地域住民が連携してエコロードを育て、さらにエコロードを活用した地域づくりを進めています。

地域連携分科会開催状況

貝泊地区での地域連携分科会

貝泊地区での地域連携分科会

入旅人地区での地域連携分科会

荷路夫地区での地域連携分科会

4 継続可能なエコロードへ

今回の荷路夫エコロードは、希少な自然の保護から身近な自然の保護へつながるように、また、行政と専門家中心の取り組みから地域住民やNPOと連携を図り取り組んできました。また、この荷路夫エコロードが、地域の資産として有効に活用されていくように、地域に密着した活動を展開し、身近な自然との共存や共生を地域の人々とともに考えながら取り組んできました。

根室工区と荷路夫バイパスが本年度間もなく供用を迎えることから、今後は、地域の方々と管理について考え、エコロードで学んだことを大人から子ども達へ伝え、身近な自然環境や地域の歴史を学び、さらには、人と人のつながり（地域の連携）を大事にするようなコミュニケーション（教育環境）の場を設けていきたいと考えています。

これにより、自然との共生を図りつつ、活力ある地域を創造し、かつ後世に長く受け継がれるようなエコロードづくりに努めていくことが重要と考えています。

荷路夫バイパス内のエコロード及び施設の利活用内容（案）